

鳴子ダム水源地域ビジョン (案)

平成 18年 3月

鳴子ダム水源地域ビジョン策定委員会

C O N T E N T S

1. 鳴子ダム水源地域ビジョンの基本理念 (案)	1
(1) 鳴子ダム水源地域ビジョンの基本理念	1
(2) 鳴子ダム水源地域ビジョンの基本方針	2
(3) 江合川流域と大崎市のかかわり	3
2. 鳴子ダム水源地域ビジョンの基本目標 (案)	4
(1) 地域を元気にする	4
(2) 地域を学習する	4
(3) 地域の文化を育てる	4
(4) 地域の環境を守る	4
3. 鳴子ダム水源地域ビジョンの基本施策 (案)	5
(1) 地域を元気にする	5
(2) 地域を学習する	7
(3) 地域の文化を育てる	9
(4) 地域の環境を守る	11
4. 鳴子ダム水源地域ビジョンの推進 (案)	13
(1) 水源地域ビジョンの展開	13
(2) 水源地域ビジョンの推進	14
(3) 水源地域ビジョンの推進主体	16
(4) 水源地域ビジョンの推進体制	17
5. 鳴子ダム水源地域ビジョンの実現 (案)	19
(1) 水源地域ビジョンの実現	19
(2) 水源地域ビジョンの事務局	21
(3) 水源地域ビジョンの推進組織の立ち上げ	21
(4) 水源地域ビジョンのプログラム	21

1. 鳴子ダム水源地域ビジョン の基本理念（案）

最終案	「豊饒なる大崎の耕土をうるおす江合川のながれ、堂々たる鬼首の山なみ・鳴子ならではの文化・風土・資源をいかし、多彩で魅力的な活動、地域内外との交流・連携により、環境に調和した持続的な水源地域のまちづくりをすすめる。」
-----	---

① 鳴子ダム水源地域ビジョンの基本理念

「豊饒なる大崎の耕土をうるおす江合川のながれ、堂々たる鬼首の山なみ・鳴子ならではの文化・風土・資源をいかし、多彩で魅力的な活動、地域内外との交流・連携により、環境に調和した持続的な水源地域のまちづくりをすすめる。」

自立した地域の文化を将来にわたり継承していくためには、交流により地域の活性化を促していく必要があります。

鳴子ダム水源地域の鳴子町や鬼首地区では観光や農業を主要な産業としています。さらに魅力的な地域づくりをめざして、持続的な取り組みを続けます。

鳴子町は市町村合併により、古川市をはじめとする1市6町と「大崎市」となりますが、鳴子町や鬼首地区のアイデンティティ（独自性）・地域自治を保ち続ける必要があります。

地域独自の食文化、安全・安心な食の提供を考えたとき、自然環境に恵まれた水源地域のブランドは何ものにも代え難い貴重な財産です。また、これらに「地域の風土」を味付け、鳴子・鬼首のブランドを築きます。

水源地域には、「山の資源」、「川の資源」、「水の資源」、「カルデラの資源」、「風土資源」など、多様で豊かな資源があります。

人工的な大がかりなものをつくるのではなく、既存の優れた資源を活用して、魅力の倍増に努めます。

これらの資源の多くは一部の人にしか知られていなかったり、地域の人もよく知らなかったりするものもあり、その活用策を検討します。

この活用策については、地域ができること、地域がやるべきことなど、他地域の方々にも協力していただくことなど、取り組みを考えます。

この取り組みの中で、地域に対する愛着がさらに増し、連携による「地域力」がうまれます。この「地域力」は、来訪者との交流によりさらに大きなものとなっていきます。

② 鳴子ダム水源地域ビジョンの基本方針

人口減少傾向にある鬼首地区、鳴子町の状況をふまえ、交流による活力の創造を目指します。

観光入り込みや、旅行形態の変化をとらえ、交流の仕組みを創成します。

水源地域の鳴子町や鬼首地区、古川市などの流域市町との連携を深めます。

水源地域で循環する産業の仕組みをつくり、郷土の風土や文化を継承し、広くPRします。

鳴子・鬼首が有する優れた自然環境や風土などをいかします。

大がかりなものを新たに造るのではなく「今」あるものを使います。

資源を「いかす」「つかう」に、工夫します。地域でその工夫づくりに取り組みます。

取り組みにより、交流が生まれ、地域コミュニティの醸成や、来訪者などとのネットワークが築かれます。

③ 江合川流域圏と大崎市のかかわり

(1) 江合川の流域圏と大崎市

「21世紀の国土のグランドデザイン」(平成10年3月31日)では、「流域圏」を一つの生活圏域としてとらえており、平成18年3月末に誕生する「大崎市」は、江合川の流域圏として、合併する1市6町の連携が期待されます。

都市的土地利用の進展、生活様式の変化等にともない、人間社会とのかかわりの中で流域の姿は大きく変貌し、水源地域との関わりが薄れています。

さらに中山間地域等において、過疎化、高齢化が進展する中、森林・農用地の適正な管理が困難となってきています。

国土の持続的な利用と健全な水循環系の回復を図るため、流域及び関連する水利用地域を流域圏としてとらえ、その歴史や風土を認識し、河川、森林、農地等の各々の役割に留意しつつ、流域圏に着目した総合的な施策を展開することが必要です。

(2) 流域交流による水源地域の振興

流域交流は、流域住民の参加、活動を通して連携関係を構築し、それぞれが役割分担のもとで相互に協力して流域の発展を目指すものです。

したがって、水源地域に対して長期的・総合的な施策を実施することにより、水源地域の自立的・持続的な振興を図っていきます。

特に、流域交流の実施に当たっては、流域内の「人材」、「情報」、「組織」、「もの」、「支援」を有効に活用することが必要です。

(3) 地域自治組織による地域プランと鳴子ダム水源地域ビジョン

流域交流に際しては、活動団体、大崎市、鳴子総合支所、地域自治組織、流域の住民団体、NPO等が行政と連携し、協力関係を構築し活動して行くことが必要です。

2. 鳴子ダム水源地域ビジョン の基本目標（案）

(1) 地域を元気にする

水源地域ビジョンの目的は、水源地域を元気にしていくことです。新「大崎市」での「鳴子町」や「鬼首」地区のランドデザインをしっかりと見すえ、地域の人たちが中心になって「地域づくり」を進めていきます。このため、新「大崎市」の人たちや、江合川流域の人たちが「江合川」によってつながり、「交流」と「連携」で地域づくりを応援します。さらに既存の資源などをうまく活用して事業化を図り地域振興を進めていきます。

(2) 地域を学習する

鳴子町には、自然環境、人文社会資源をはじめ、「地域らしさ」の資源が多数あります。地域に住む人たちが地域のことをよく知らないと、来訪者との交流もなかなか生まれません。総合学習など、地域内外の学習の場として、地域の資源を、長期的に、将来像を見すえながら活用していきます。

(3) 地域の文化を育てる

地域のひとたちが地域に誇りをもちながら、地域の代表者として地域づくりに取り組む必要があります。このため、これまで受け継がれてきた風土や文化をよく学びながら、地域の価値を高め、新たな文化の創造を進めていきます。

(4) 地域の環境を守る

鳴子町には、自生山の自然杉や鬼首カルデラ地形をはじめとする豊かな自然がたくさんあります。また、町営牧場、水田、畑地などの農地、鬼首地区をはじめとする農村集落など、現在の高い地域価値を維持・継承し、地域の環境を守っていきます。

3. 鳴子ダム水源地域ビジョン の基本施策（案）

1. 地域を元気にする

(1) 地域づくりの意識で地域の活性化を目指す

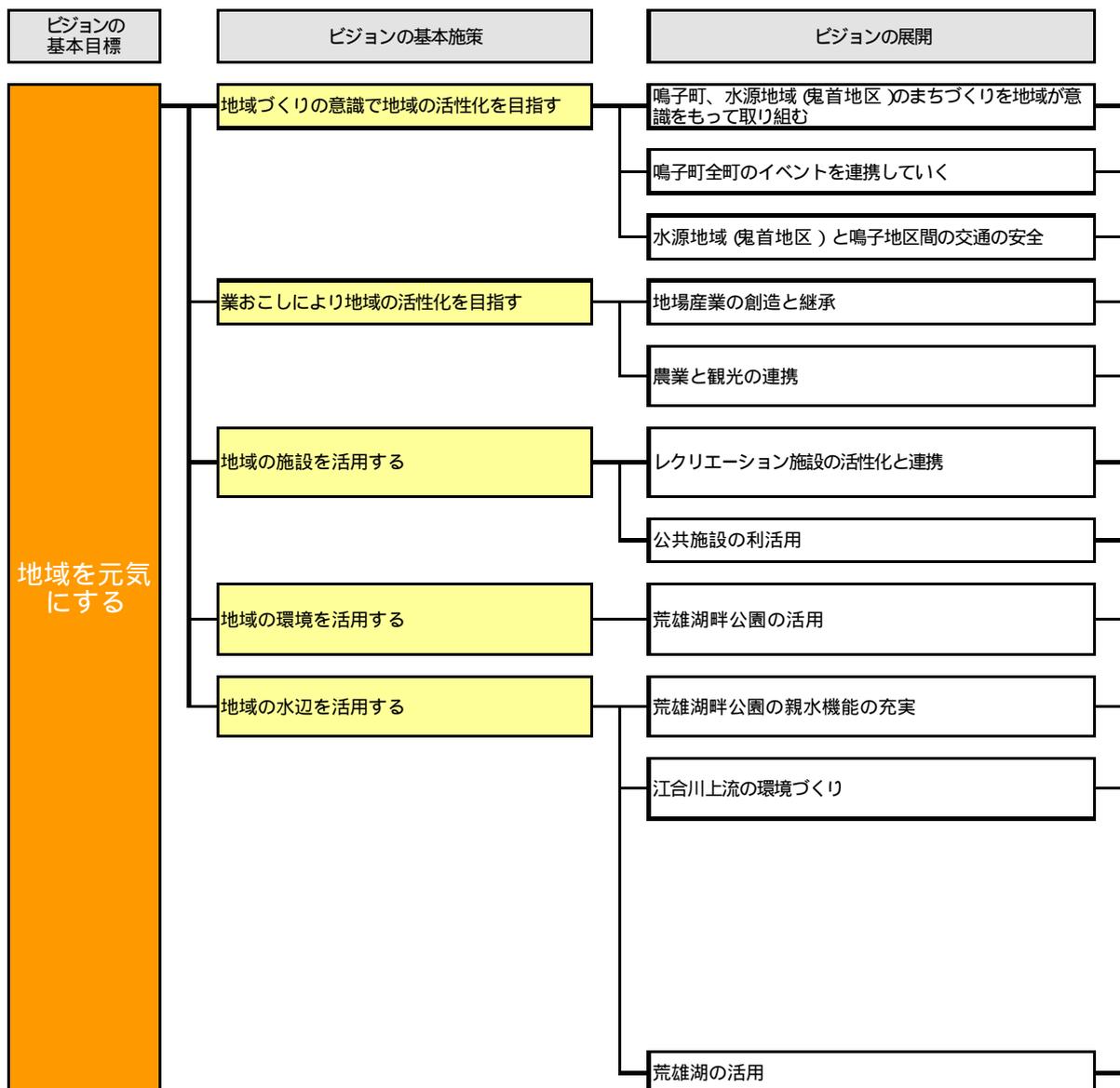
水源地域のまちづくりを地域が主体となって継続的に取り組んでいきます。

(2) 業おこしにより地域の活性化を目指す

地場産業や農業と観光の連携により地域の活性化を目指していきます。

(3) 地域の施設を活用する

既存の地域の施設をうまく活用していきます。



(4) 地域の環境を活用する

荒雄湖畔公園をうまく活用していきます。

(5) 地域の水辺を活用する

荒雄湖畔公園や江合川の水辺をうまく活用していきます。

ビジョンのメニュー	取り組み内容
地域づくりへの参加と交流・連携の促進	水源地域における社会活動への参加や古来から続く地域行事等の継承と保存を通して交流促進を図る
グリーンツーリズム関連イベントの充実・継続	イベントの相互連携・協力によるイベント内容の充実を図る 国・県等の支援策を導入した円滑なイベント展開
国道108号早期改良整備のはたらきかけ	県、国に対して108号の早期整備ならびに必要性(安全、産業活性化等)を訴えていく
グリーンツーリズムの経営環境を整える	地域の新産業として定着させるためにグリーンツーリズムの質の向上と鳴子独自のグリーンツーリズムの開発を行う
やまが旬の市の活性化 農産物の地産地消・地域食として給食供給	地域食材を活用した地域独自の食文化(山の幸、陸の幸、海の幸・サメ等)の創出・開発を進め、食における観光振興ならびに農業振興を図る
レクリエーション施設の活性化 イベントの相互連携 ホームページのリンク	レクリエーション施設を活用した各種イベントプログラム等の作成と運用・PRによる施設の有効活用を図る
廃校後の鬼首中学校の活用	仮称「山と川のがっこう」等、廃校を活用した地域拠点形成について検討を行う
オートキャンプ場など機能更新 地域活動の場としての拠点化 冬期の活用	初心者から上級者までアウトドア全般の学習拠点として通年利用に対応できるプログラムや湖畔公園の整備を行い利用拡大を目指す
フィッシャーマンズロッジの整備 スロープの整備	荒雄湖周辺の水生動植物の生息情報を発信するフィッシャーマンズロッジと安全に水辺を利用するための親水スロープを整備する
サイクリングロードの整備 親水護岸による水とのふれあいの場の創出	鳴子、鬼首地域に少ないサイクリングロードの整備を図り、宿泊観光客等に対する新しい観光内容を提案する
	水源地域の河川における親水護岸の整備
キャッチアンドリリースによる環境の保護 発眼卵放流などの事業	水生動植物の生息状況マップの作成とキャッチアンドリリースの啓蒙発眼卵放流事業による生態系の保全
荒雄湖のクルーズ	荒雄湖における湖畔クルーズやカヌー、ボート、釣り等の利用環境を形成する

3. 鳴子ダム水源地域ビジョン の基本施策（案）

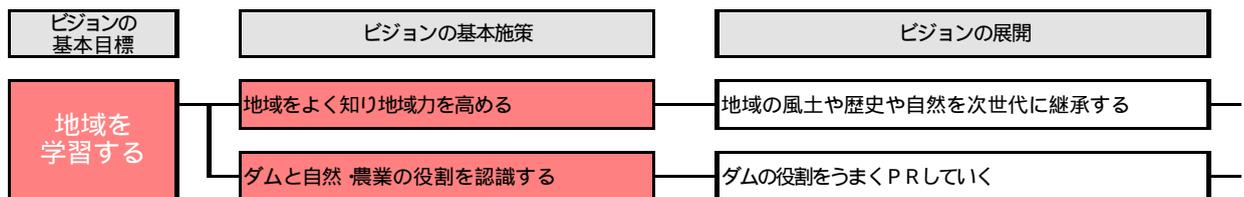
2. 地域を学習する

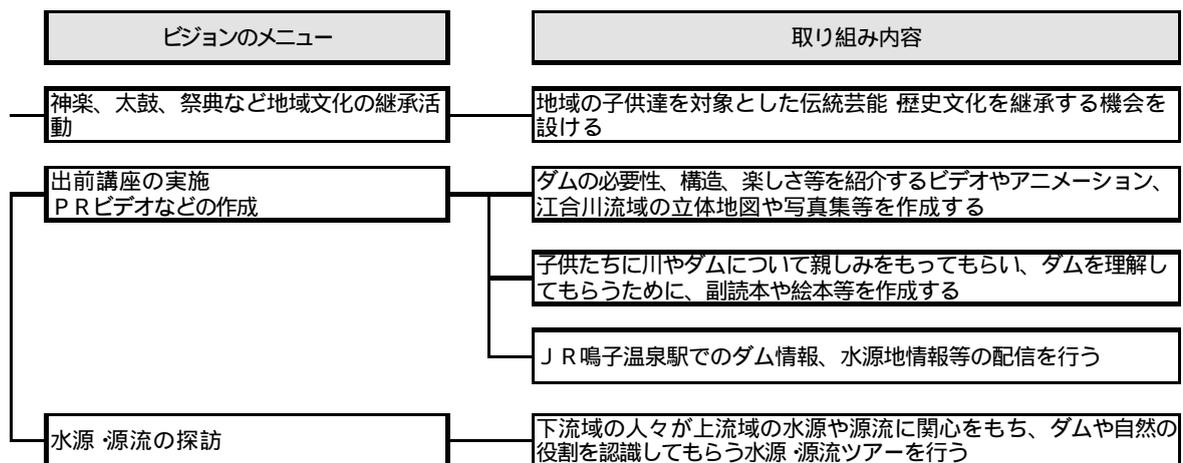
(1) 地域をよく知り地域力を高める

荒雄川神社祭典、鬼首神楽、鬼首心鼓の会（太鼓）などの地域の風土を継承してきます。さらに地域の資源を地域が学習し、地域力を高めていきます。

(2) ダムと自然・農業の役割を認識する

ダムの役割をうまく活用し、江合川下流域の方々と、自然・農業な側面でのつながりを高めていきます。





3. 鳴子ダム水源地域ビジョン の基本施策（案）

3. 地域の文化を育てる

(1) 鳴子町特有の温泉資源を活用する

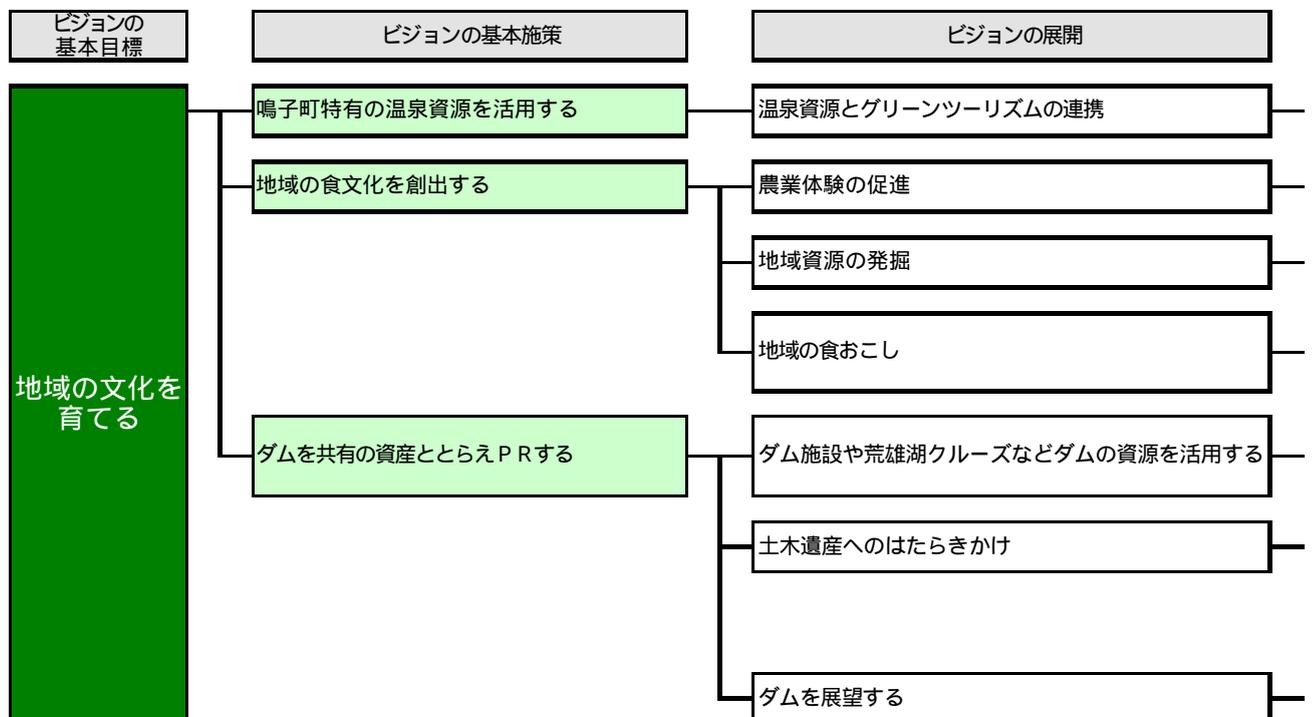
鳴子町の温泉資源を活用し、グリーンツーリズムなどとの連携により、観光業との連携を高めていきます。

(2) 地域の食文化を創出する

農業体験の充実を図り、水源地域と都会との交流を図ります。また、地域の食に着眼した取り組みを進めます。

(3) ダムを共有の資産ととらえPRする

鳴子ダムの資源を活用した取り組みを継続するとともに、鳴子ダムの見学や、鳴子ダムの展望台（新たに整備される国道 108 号バイパス湖西道路から）の整備を検討します。



ビジョンのメニュー	取り組み内容
温泉資源とグリーンツーリズムを組み合わせたパッケージの立ち上げ	温泉、アウトドア、農業体験、地元食材利用等を組み合わせた多彩なツアーメニューづくりを行う
鬼楽里など農業体験の充実	「鬼首スタイル」の確立と「鬼楽里ふるさと体験」の定着を図り、リピーターの確保に努める
鬼首湧水のPR	鬼首湧水を活用した商品開発や湧水先進地との連携によるPR活動を活発にする
地域食の提供 蕎麦うち体験、ブルーベリー農園の充実 鳴子美食倶楽部の活性化	地域食材の発掘と地域食材を活用した新メニューの開発を進める 食と酒と温泉と町並みの質の向上による地域ブランドの形成を図る 鳴子牛COWニバルを活用した地元食材のPR
インクラインの利用 旧隧道の利用 荒雄湖クルーズ	見学 体験型学習の場としてのダム施設の活用 荒雄湖クルーズによるダムへの理解向上 展示、保存空間としての旧隧道の有効活用を図る
土木遺産へのはたらきかけ ヘリテージツーリズムの促進	土木施設の優美さ、卓越した技術等、歴史的土木施設の拠点としてダムサイトの活用を図る 春のすだれ放流とダムを泳ぐ鯉のぼりの継続とPR
ダムの展望台を整備する	管理所テラスや展望広場、国道バイパスへからの展望等、通年利用できる展望台を整備する

3. 鳴子ダム水源地域ビジョン の基本施策（案）

4. 地域の環境を守る

(1) 水力や地熱発電などの環境を活用する

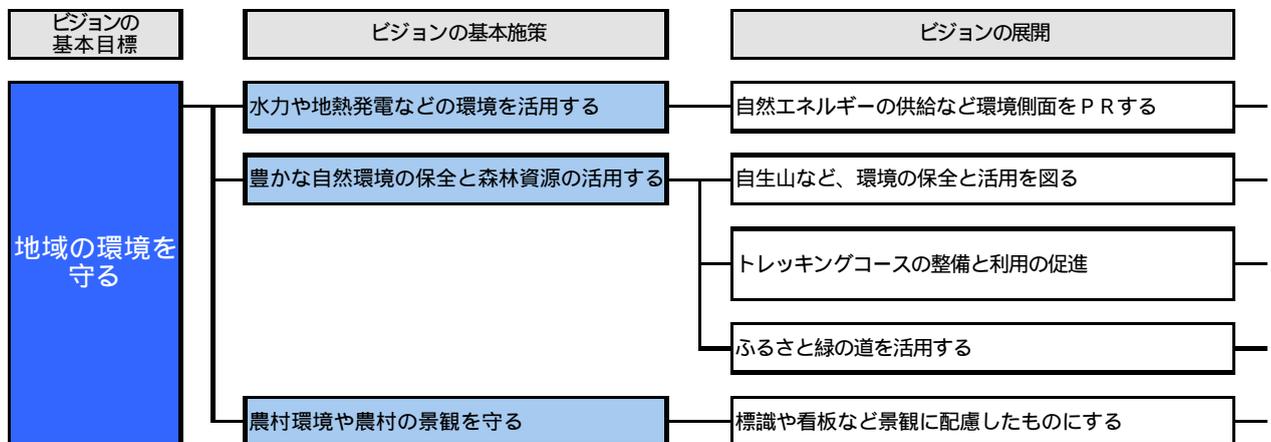
水源地域にある発電施設を、環境にやさしいエネルギーの供給地域としてPRしていきます。

(2) 豊かな自然環境の保全と森林資源を活用する

水源地域の自然環境の保全とともに、トレッキングコースなど各種施設の有効利用を行います。

(3) 農村環境や農村の景観を守る

水源地域の農村環境や景観を守り、広告や看板等のあり方を検討します。



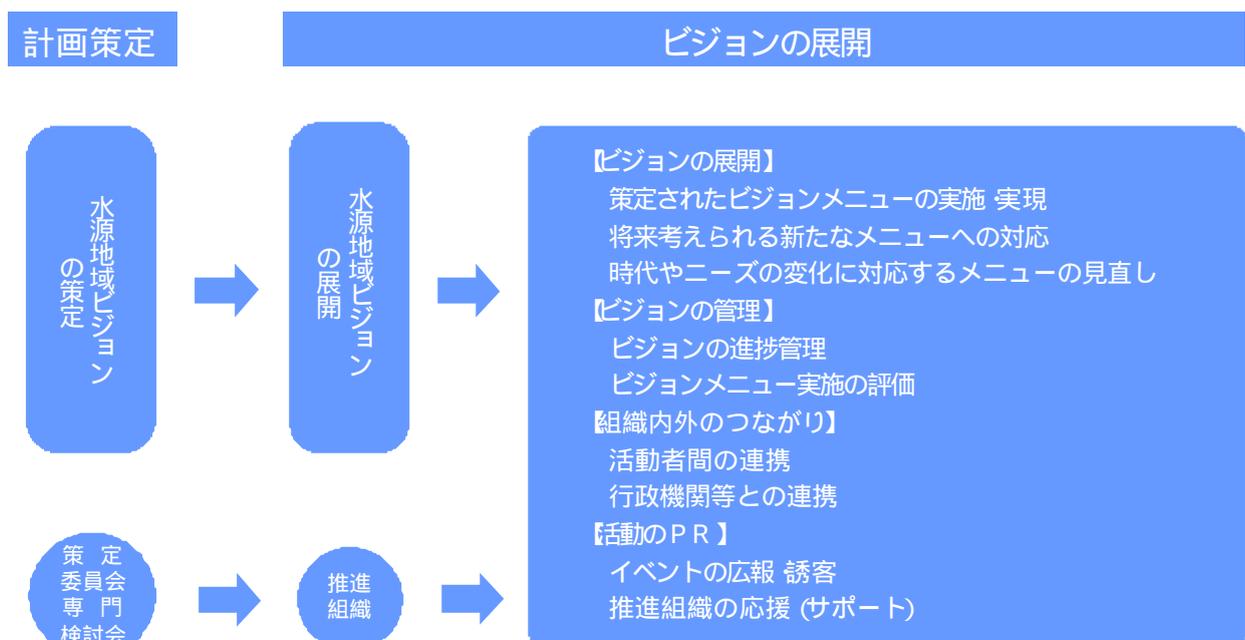
ビジョンのメニュー	取り組み内容
あつまれ！鳴子ダム活動を拡充 地熱発電、水力発電相互の連携	イベントを通してエネルギーやダムの仕組みを目で見て、感じてもらえるよう、活動の質の向上と参加者の関心度や話題度を高める
巨木の森鳴子天杉や、あつまれ！鳴子ダム の森林教室の活動を拡充する	森林教室の座学や終日行うフィールドワーク等、現在行っている活動をさらに掘り下げ充実を図る
シロヤシオツアーなどの利用促進 オニコウベスキー場～花淵山スキー場の トレッキングコースの整備	春から秋にかけてトレッキングやハイキング等が可能な環境整備を行い、新たな観光資源と位置づける
ふるさと緑の道を活用した近隣地域との 連携	自然を楽しみ、周辺地域との連携強化を図るために、ルートのPR活動に努める
景観づくり活動、景観ルールなどをつくる	地域環境を守るためにサイン・看板の色や形等統一ルールを設ける

4. 鳴子ダム水源地域ビジョンの推進（案）

(1) 水源地域ビジョンの展開

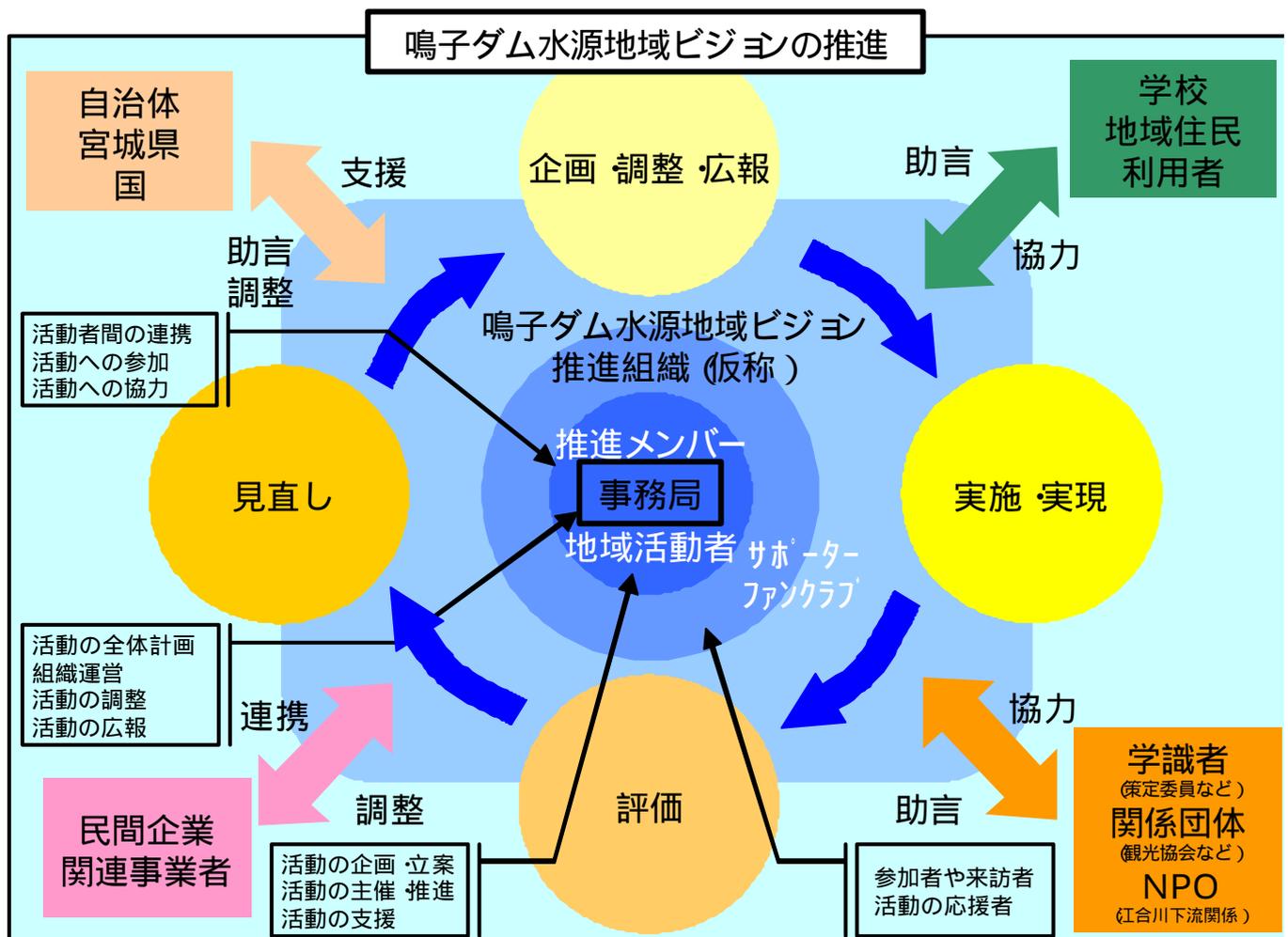
鳴子ダム水源地域ビジョンは、第3回策定委員会開催以降、ビジョンの推進を検討する「専門検討会」を設置し、その方向性を検討しました。

推進組織では、「ビジョンの展開」「ビジョンの管理」「組織内外のつながり」「活動のPR」などの根幹的な活動を行うことが必要と考えられます。



(2) 水源地域ビジョンの推進

鳴子ダム水源地域ビジョンの推進においては、策定委員会から「推進組織」にバトンタッチし、水源地域の推進メンバーや地域活動者、水源地域内外のサポーターやファンクラブを両輪とした組織づくりや、事務局の設置が必要と考えられます。



4. 鳴子ダム水源地域ビジョン の推進（案）

<p>水源地域ビジョン推進組織</p>	<p>地域内の関連組織や団体が共通の目標をもって、同じ土台で地域づくりを行っていくための象徴ともいえる組織です。</p> <p>今後、鳴子ダム水源地域ビジョンのシンボル「地域を元気にする」等に掲げる活動は、この水源地ビジョン推進組織のもと行われることとなります。</p> <p>また、行政指導や助成制度の導入検討と、行政間連携を図りながらビジョン活動を支援していきます。</p> <p>行政及び鳴子ダム管理所は、地元の住民や地域活動団体などがビジョン活動をしたと思ったときに、迅速に対応しバックアップができるようにするため、このような組織を構築しておきます。</p>
<p>推進メンバー 地域活動者</p>	<p>水源地域ビジョンのネットワークの中心となり、連携や交流等、活動を自ら実践していきます。</p> <p>取材等による情報収集を行い、ネットワークを通じて情報発信していきます。</p> <p>水源地域ビジョンに位置づけられた活動に対しては、さまざまな形の支援を受けることが考えられます。</p>
<p>サポーター ファンクラブ</p>	<p>水源地域ビジョンに理解を示し、鳴子エリアをはじめとする江合川流域に、愛着を持って親しみ、交流し、応援していきます。</p>
<p>事務局</p>	<p>ビジョン活動に関する総合窓口であり、関連情報などのとりまとめや発信も行います。</p>

(3) 水源地域ビジョンの推進主体

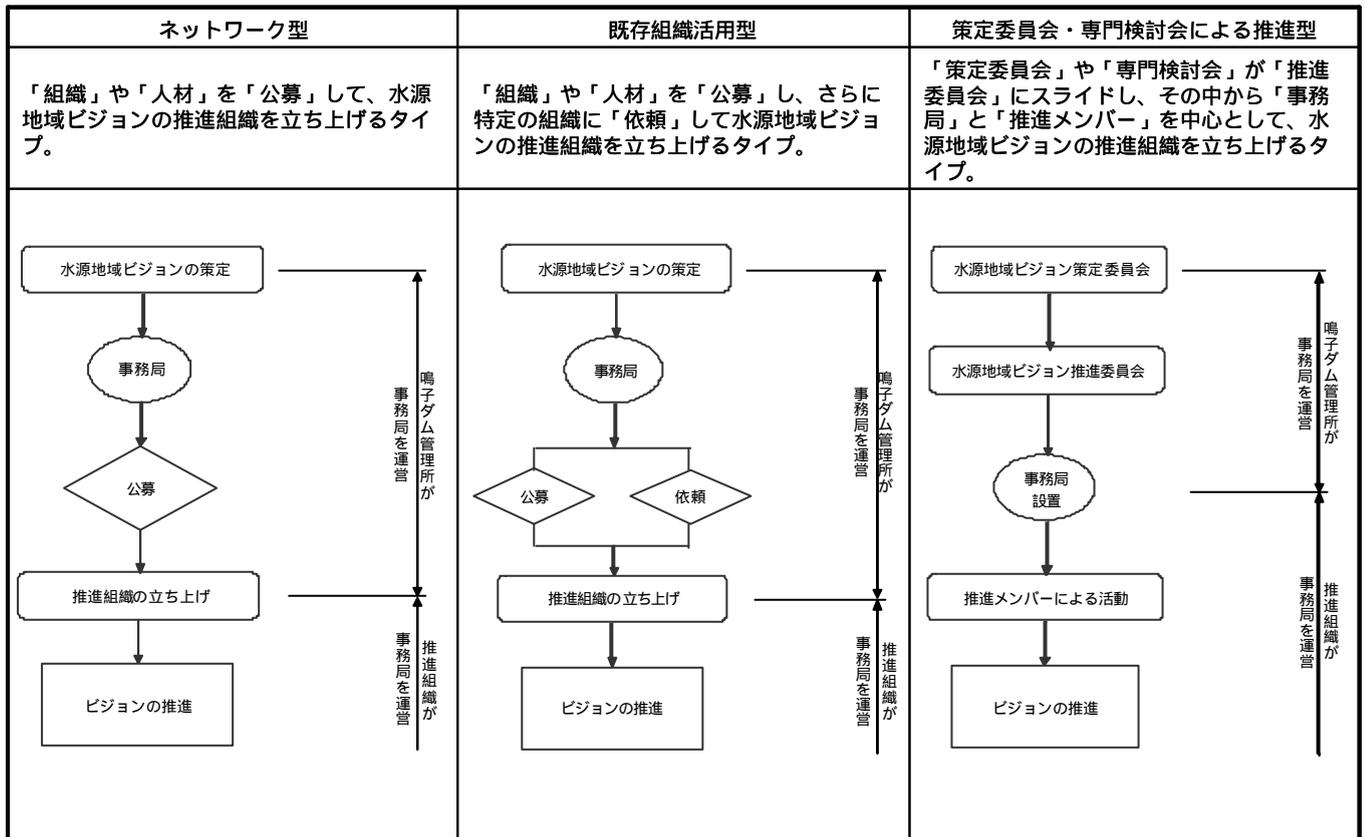
鳴子ダム水源地域ビジョンの推進においては、「推進組織」による包括的な運営と「事務局」による具体的活動が必要であり、「推進組織」と「事務局」の役割は以下のような役割が必要と考えられます。

推進組織の役割	事務局の役割
<p>(1)組織化</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)策定委員会 推進組織へバトンタッチ 2)地域活動者や関連機関を主体としたネットワークをつくる 3)組織体を運営する事務局(代表・人材)を設置する。 <p>(2)ビジョンメニュー推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)企画 調整 (plan) 水源地域ビジョンの推進体制づくり 2)実施 実現 (Do) ビジョンメニューの実施 推進組織間の連携を支援 3)評価 (check) ビジョンメニュー達成度の評価 4)見直し・展開・支援 (Action) ビジョンメニューの見直し 必要に応じた支援の実施 	<p>(1)組織づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)地域活動団体との連携 定期的な連絡調整会の開催 連携ネットワークの整備 2)サポーターやファンクラブの募集 広報活動による募集 イベント参加者への要請 3)人材バンク登録 地域活動団体等からの情報提供 サポーターやファンクラブの登録 <p>(2)企画調整</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)地域活動団体や関連機関との企画調整 関係組織との企画調整 関係機関との活動調整 2)関係機関への支援 支援メニュー(補助事業等)の整理 関係機関への支援のはたらきかけ <p>(3)広報</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)広報活動(ポータルサイトやかわら版などの発信) 2)大崎市、下流自治体 関係機関への情報発信

4. 鳴子ダム水源地域ビジョンの推進（案）

(4) 水源地域ビジョンの推進体制

推進体制づくりにおいては、「ネットワーク型」、「既存組織活用型」、「策定委員会・専門検討会による推進型」の3つの方向性を検討し、鳴子ダム水源地域ビジョンの推進においては、ネットワーク型が望ましいものと考えられ、事務局から各団体等に参加の呼びかけを行います。



公募：鳴子ダム水源地域ビジョン策定にあわせ、推進組織に参加していただく組織や人材を公募する。

依頼：鳴子ダム水源地域ビジョンの「策定委員会」や「専門検討会」の委員の関係の地域活動団体等へ推進活動を依頼する。

タイプ	各案の概要	事務局の考え方	課題など	鳴子ダム管理所の支援	推進組織への参加	
					公募	依頼
ネットワーク型	<p>鳴子ダム水源地域ビジョン策定にあわせ「事務局」を立ち上げる。</p> <p>鳴子町内外の地域活動団体にネットワークに参加していただく。</p> <p>ネットワーク組織をつくり、事務局が中心となってビジョンの推進に取り組む。</p> <p>各既存組織の独自性は保たれる。各既存組織の横のつながりが期待できる。</p>	<p>ビジョン策定後、ネットワーク組織づくりまでの期間は、鳴子ダム管理所が事務局を運営する。</p> <p>ネットワーク組織づくり後、ネットワーク内に事務局を設置する。</p>	<p>鳴子町内外の既存祖域の水源地域ビジョン推進に向けた合意形成</p> <p>水源地域ビジョン施策と既存組織間の調整</p> <p>ビジョン推進活動に参画する人の固定化</p> <p>組織や人材間でのビジョン推進に対する意識づくり（推進組織への帰属意識づくり）</p>	<p>ネットワーク組織づくりまでの事務局の運営</p>		
既存組織活用型	<p>鳴子ダム水源地域ビジョン策定後、鳴子町内外の既存組織に、ビジョン推進の活動を取り組んでいただく。</p> <p>既存組織がビジョン推進のための役割を担う。</p>	<p>ビジョン策定後、事務局は鳴子町内外の既存組織に移行する。</p>	<p>鳴子町内外の既存組織の水源地域ビジョン推進に向けた合意形成</p> <p>鳴子町内外の既存組織活動の独自性維持</p> <p>鳴子町内外の既存組織の対応力（資金・人材）</p> <p>推進活動を担っていただく鳴子町内外の既存組織の選定</p> <p>既存組織以外のビジョン推進への参加の仕組みづくり</p> <p>推進組織としての「公益性」の確保</p> <p>行政機関や各種団体、民間企業・関連事業者、学校等との調整</p>	<p>既存組織への事務支援</p>		
委員会移行型	<p>鳴子ダム水源地域ビジョン策定後、策定委員会及び専門検討会を、推進委員会として組織化する。</p> <p>推進委員会の中から、水源地域ビジョンの施策を展開する「推進メンバー」を組織化する。</p>	<p>推進委員会（「推進メンバー」）の中から、事務局を設置する。</p>	<p>策定委員、専門検討会での水源地域ビジョン推進に向けた合意形成。</p> <p>策定委員、専門検討委員以外のビジョン推進への参加の仕組みづくり。</p>	<p>事務局の一員としての運営支援</p>		

5. 鳴子ダム水源地域ビジョンの実現（案）

(1) 水源地域ビジョンの実現

1) まちづくりキーマン 横の連携も密に交流

水源地域内外の地域活動者間が連携して、水源地域ビジョンの推進を図ります。

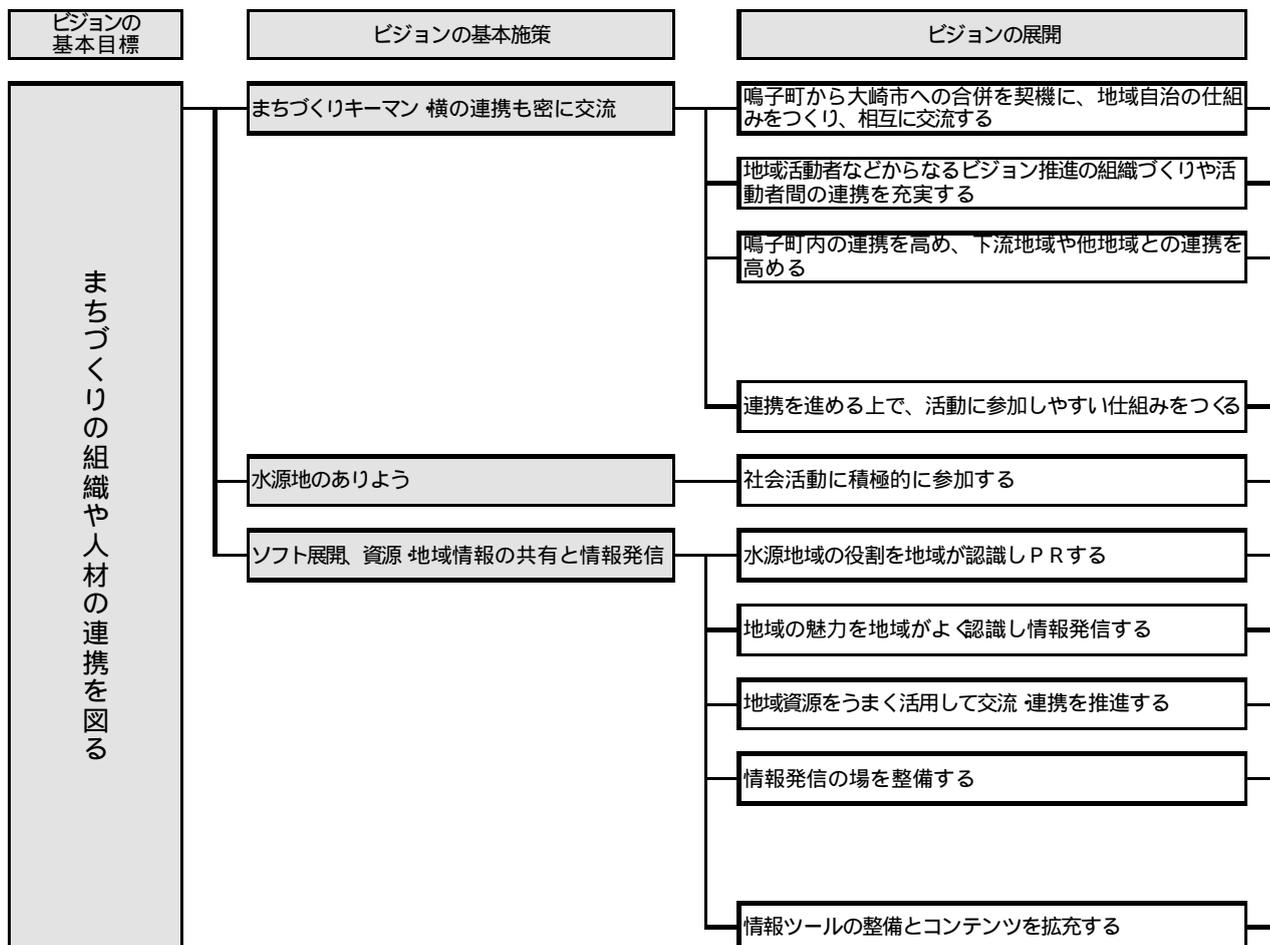
また、水源地域で活動が展開しているグリーンツーリズムと観光業との連携をつなげます。

2) 水源地のありよう

水源地域のみなさんが、積極的に水源地域ビジョンに参加できる仕組みや、活動の場をつくります。

3) ソフト展開、資源 地域情報の共有と情報発信

水源地域での活動や、水源地域ビジョンの推進について、一元的な情報発信を行います。



ビジョンのメニュー	取り組み内容
鳴子町における地域自治組織の確立 大崎市の地域自治組織間の交流	水源地域ビジョン推進への支援と積極的な情報提供による地域自治組織間の連携を図る
ビジョンの推進組織をつくる 推進組織の機能・役割を明確にする	ゆるやかな連携の下、ビジョン推進組織ならびに事務局を早期に立ち上げ、組織内外における役割分担を図る
旅館・ホテルとグリーンツーリズムの活動 の相互連携を図る	江合川流域の宿泊施設やグリーンツーリズム活動者との連携による広域的な観光資源開発を図る
他の水源地域ビジョン策定地域との有機 的な連携を図る	釜房ダムや七ヶ宿ダムをはじめ、宮城県内外の水源地域ビジョン策定地域との情報交換を活発にし、ビジョンの円滑な推進に努める
人材バンクの設立 異業種交流の推進	様々な活動者の技術や情報を活用し、地域が一体となって活動できる地域活動者データベースを整備する
水源地域の大人から子どもまで楽しめる 社会参加の仕組みをつくる	遊びとイベントと学習の要素を取り入れた水源地域における社会活動プログラムの開発と参加を促す
かわら版などの継続	紙面とWebによるかわら版の継続配信を行う
心暖まるおもてなしによるリピーターの確 保	地域住民自らイベントに参加し、地域を認識し、地域の魅力発見した上で、来訪者に対して自信をもったおもてなしを行う
グリーンツーリズム等へのガイド機能整 備	J R鳴子温泉駅等にツアーディスクを設置し、水源地域におけるツアーガイドを行う
ポータルサイトの設立 J R鳴子温泉駅における情報配信	水源地域の各種団体等のWeb情報の総合窓口としてのポータルサイトの立ち上げを行う
	J R鳴子温泉駅待合ホールに、時代に即した新たな映像装置を整備し情報配信を行う
テレビや新聞等での広報活動	地域活動のPR媒体としてテレビ、ラジオ、新聞等への広報やメールマガジン等の配信を行う

5. 鳴子ダム水源地域ビジョン の実現（案）

(2) 水源地域ビジョンの事務局について

水源地域ビジョン推進の事務局は、組織の「立ち上げ時」には、鳴子ダム管理所も事務局の支援に取り組み、「安定時」には推進組織が中心となり取り組んでいきます。

(3) 水源地域ビジョンの推進組織の立ち上げ

鳴子町内の地域活動団体および鳴子総合支所、鳴子ダム管理所が中心となり、水源地域ビジョン推進組織の形成を、平成 18 年度の早期に設立を目指し準備していきます。

(4) 水源地域ビジョンのプログラムについて

1) 目標

水源地域ビジョンの各施策の取り組みについて、以下の 2 つの区分を設定します。

現在の活動を継続し発展させていく
新たな施策について検討・実現する

2) 取り組む時期

水源地域ビジョンの各施策の取り組みについて、以下の 3 つの区分を設定します。

短期：おおむね 5 年以内に取り組みを実現する
中期：おおむね 10 年以内に取り組みを実現する
長期：おおむね 10 年以降に取り組みを実現する

3) 推進体制

水源地域ビジョンの各施策の取り組みについて、以下の 4 つの区分を設定します。

現組織が主体：現在の活動を現組織が主体となって取り組みを実現する
連携して：現組織や推進組織などが連携して取り組みを実現する
支援要請：現組織や推進組織などが行政などに取り組みの支援を要請する
行政主体：行政が主体となって取り組みを実現する
鳴子ダム：鳴子ダム管理所が主体となって取り組みを実現する

4) 進行管理

水源地域ビジョンの各施策の取り組みについて、以下の4つの区分で進行を管理します。

実現した：現在の活動を現組織が主体となって取り組みを実現する

計画した：現組織や推進組織などが取り組みを計画した

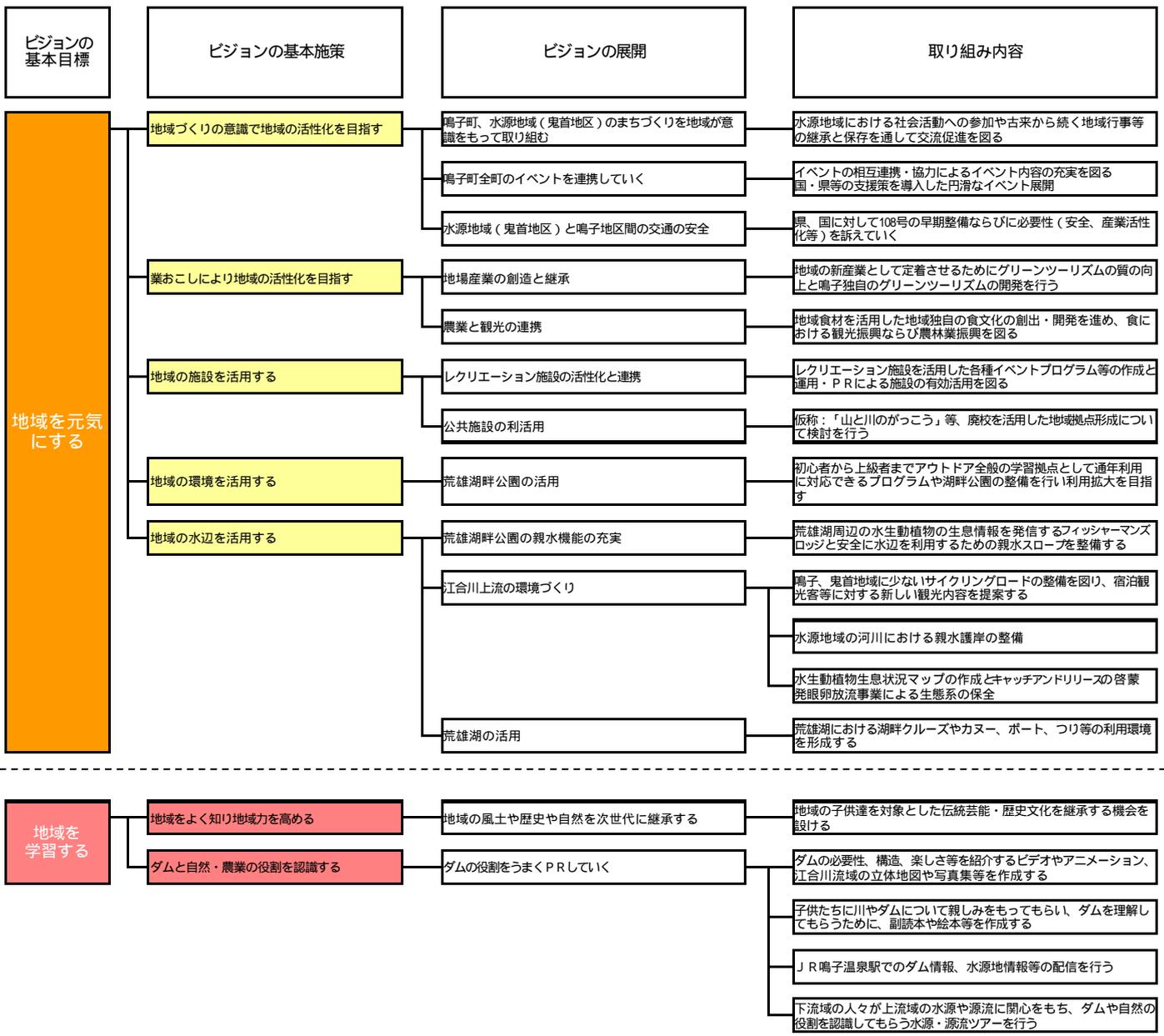
検討中：現組織や推進組織などが取り組みを検討した

未実施：取り組みができなかった

さらに、水源地域環境への貢献、地域づくりへの貢献などの評価指標を設け、施策の進行管理を行っていきます。

【水源地域環境への貢献】	【地域づくりへの貢献】
水環境の保全 改善	地域情報の発信窓口の形成
水源地域の保全	情報発信システムの整備
生態系の保全 再生と河川等の整備	情報ツールの整備とコンテンツの拡充
河川の自然環境の保全 再生	既存イベントの連携と継続拡大
川を活かした自然学習、環境教育、人材育成	伝統産業の継承
良好な河川景観の形成	伝統芸能や文化の継承
地域の歴史・風土・文化・社会と川との相互連携	観光産業と農林業との連携 融合
個性豊かで活力ある地域社会の形成	・レクリエーション施設利用の促進
歴史、風土、文化を活かした水辺の形成	デザインコントロールによる景観配慮
水辺の形成、水辺の機能、水と緑のネットワーク	温泉資源とグリーンツーリズムの有機的連携
河川、ダム等に関する情報の共有化と公開	荒雄湖畔公園の有効活用
	公共施設の有効活用(廃校活用等)
	ダムを活かした観光資源の発掘
	地域の食おこしによる新たな観光資源の発掘
	人材バンクによる組織の円滑な運営
	地域住民の地域社会活動への積極的参加
	水源地域の役割と地域情報の積極的なPR
	新たな地場産業の発掘

5. 鳴子ダム水源地域ビジョンの実現(案)



5. 鳴子ダム水源地域ビジョンの実現(案)



5. 鳴子ダム水源地域ビジョンの実現(案)



